
恋わずらい

扇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋わずらい

【Nコード】

N4685B

【作者名】

扇

【あらすじ】

（これは、ある作者先生とのタッグで造り上げた恋愛小説です。）
高2の太陽は、クラス内では嫌われ者だった。彼のクラスメートは誰も彼の事を相手にせず、無視し続けていた。ただ、一人の女子を除いて。太陽は、いつも自分に優しく話し掛けてくれる彼女に対して、いつの間にか密かな恋心を抱き、恋わずらいになってしまった。

（前書き）

恋愛小説を投稿したのは初めてなので…温かい目で読んで頂けると嬉しいです。では、どうぞ…

俺は、福嶋ふくしま 太陽たいよう、高2。周りのクラスメートから“太陽”と呼ばれてる。

友達は、沢山いる。

嘘、いる訳がない…。

俺は、周りの人々に嫌われてるから。

でも、俺にはたった一人だけ…無視せずに話し掛けてくれる人がいる。

「ねえ、福嶋。」

「…何だよ。」

今、俺に話し掛けたのは唯一女子で俺を対等に扱って話し掛けてくれている、竹橋たけはし 凜りんだ。

彼女は、秀才でスポーツも出来て、まさに文武両道ぶんぶりょうどうな女子だ。

少し可愛くて、性格も優しく、よく俺と話してくれる…そんな彼女の姿に俺は自然と徐々に惹かれていったんだ。

「最近、私にメール送ってこないじゃん。」

「ああ…そうだったな。」

メルアド交換は最初、彼女の方から聞いてきた。俺は、嬉しい気持ちと彼女にもて遊ばれて、からかわれているのかという不安な気持ち半々だった。

当時、彼女は俺を毛嫌いして見下している女子達のグループにいた。だから俺は、彼女に騙されているのかと不安になってしまい、彼女の事を心の底で憎んだ。

でも、彼女は違った。そのグループにいても根は真面目で、彼女とのメールのやり取りもかなり楽しかった。でも…

彼女にとって俺は、ただのクラスメイトでメル友だけの存在だった…。

それを悟ったのは修学旅行の時。彼女に既に彼氏がいると、同じ班の奴に教えられてしまったのだ…。それを聴いた瞬間、俺の何かが崩壊した。

衝撃を受けた日の夜中、俺は罰ゲームとして修学旅行内での班員達にせがまれて、決して彼女に届かない“真面目な”告白を言わされた。俺は、しょうがなく勇気を振り絞って叫んだ。

「凜、好きだあー!!」

結局、班員達には笑われたが俺は今まで持ち続けていた心の中のモヤモヤ感が少しだけ取れたんだ。

それからというものの、彼女とメールしたりしてるが、学校で彼女の笑顔を見る度に胸が苦しくなった。

俺は、未だに彼女に面と向かって告白する勇氣は無い。

「……………嶋？ねえ、聞いてんの福嶋？」
「…へっ？」

俺が気が付くと、彼女は心配そうな顔をしていた。

「またシカトしたあ。福嶋の悪い癖だよ。」

「ワリイ…ゴメンな。」

「…何かいつもと違うね、福嶋。福嶋が素直に謝る事なんて滅多に無いのに…」

「…そうですか。」

彼女とのこんな些細な会話でも、俺は楽しい。例え彼女に彼氏がいたとしても、会話は出来る。だから…出来るだけ彼女に接していたいんだ。

「あ、あのさ…」

「うん、なあに？」

「実は…前からさ…」

「…前から何？」

「竹橋の事…」

何故今、彼女に告白しようとしてるのか解らない。だけどこれ以上、“恋わずらい”なんてしたくないんだ！だから、今出来る内に…

「た…竹橋の事…」

「ふ…福島？」

「す…す…」

「なあに、福島らしくないじゃん。早く言つてよ。」

そう、言えば…終わるんだ。

「す…素敵だな、竹橋は。」

「…はあ？何言つてんの福島。アハハ…可かしい！」

「なっ…何だよお！」

「やっぱ、福島は福島だね！」

そう言つて、凜は笑った。

そんな彼女の自然で可愛い笑顔は、俺の恋わずらいを悪化させるんだ…。

彼女は、他の女子の所へ行ってしまった。

「…くそつ。」

俺は、凜に告白出来なかった悔しさで静かにズボンを握りしめていた…。

結局、彼女に告白出来なかった。でも、彼女の事はまだ諦めてない、てか諦めきれなかった。

俺の“恋わずらい”は彼女の笑顔の所為^{せい}で、まだ治りそうもない…。

（後書き）

読んで頂きまして、ありがとうございました。

評価や感想などございましたらなんなりと書いていって下さい。それを次号の作品の参考にしたいので、宜しくお願い致します。その後、連載中の小説の方も宜しくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4685b/>

恋わずらい

2010年12月8日18時45分発行